

令和7年2月20日

中国地域の経済動向

(令和6年12月の指標を中心に)

～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

中国地域の経済は、生産は横ばい傾向、個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる、雇用は有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で増加など、全体として、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。

※当局ホームページ (<https://www.chugoku.meti.go.jp>) にも同様の資料を掲載しております。

■項目別の動向

1. 生産動向・・・横ばい傾向

別添 中国地域鉱工業生産動向参照

2. 個人消費・・・持ち直しの動きに足踏み感がみられる

別添 中国地域百貨店・スーパー販売動向参照

3. 雇用・・・有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で増加4. 景況感・・・現状は前月に比べ上昇、先行きは低下

5. 貿易・・・輸出、輸入ともに前年同月比で減少(更新なし)

6. 建設動向・・・公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加

7. 企業倒産・・・件数、負債総額とも前年同月比で減少

8. 設備投資・・・2024年度計画は前年度を上回る見込み

※各項目の詳細については、次頁以降を参照してください。

※基調における下線は、前回からの変更箇所です。

(本発表資料のお問合せ先)

総務企画部企画調査課長 腰本 和輝

電話:082-224-5633

メール:bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

1. 生産動向 ～横ばい傾向～

(中国地域鉱工業生産動向 2024年12月 速報)

2024年12月の鉱工業生産指数は 102.7、前月比 0.1%の上昇となった(2020年＝100、季節調整済)。出荷は低下、在庫は上昇、在庫率は横ばいとなった。

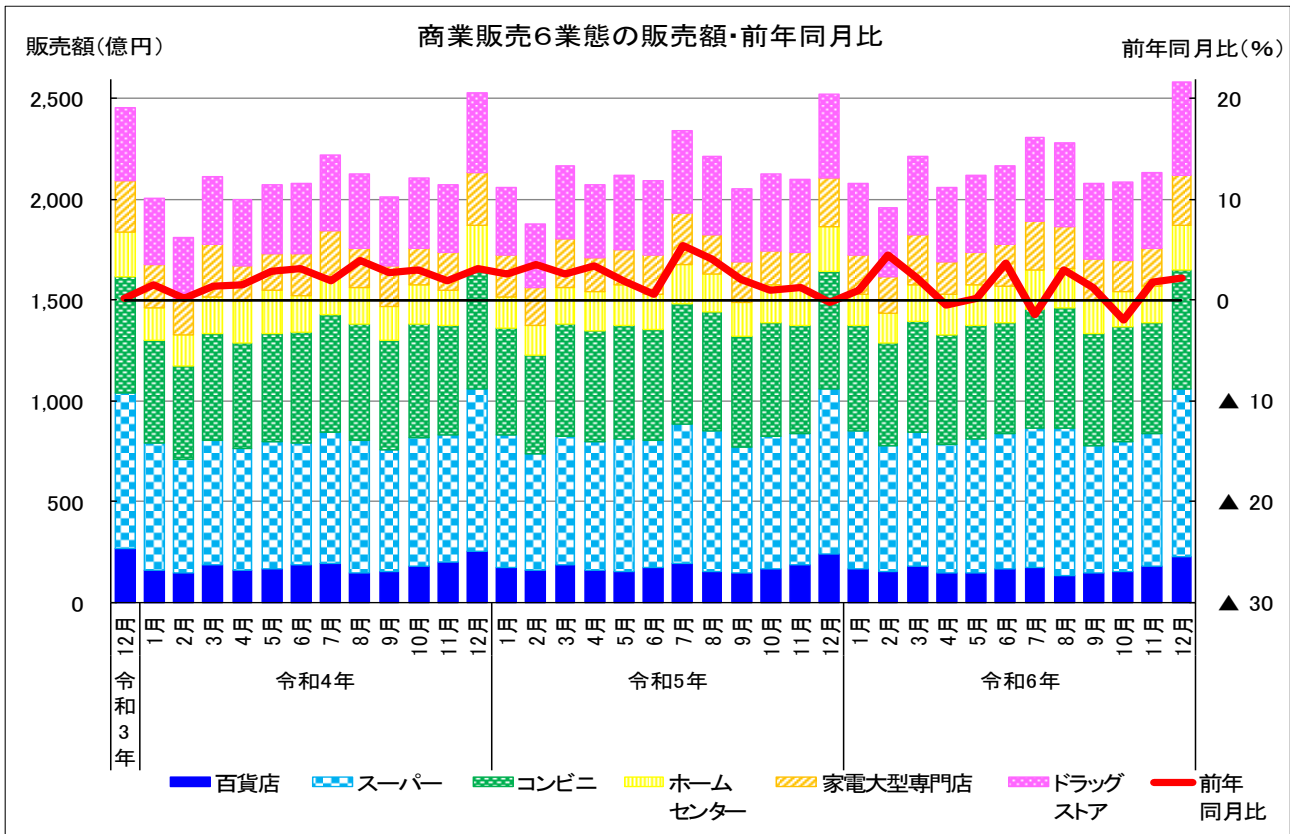
2. 個人消費 ～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

12月の商業6業態の販売額は2,581億円で、前年同月比2.2%と2か月連続で前年を上回った。

12月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車全てが前年同月を下回り、合計では前年同月比▲7.4%と2か月連続で前年を下回った。また、12月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前年同月比3.0%の上昇となった。

(1)商業6業態(12月)

		(百万円)		(全店舗、%)	
(6業態に おける構成比)		販売額	前年同月比	(前月の 前年同月比)	
6業態		258,126	2.2 2か月連続 プラス	(1.7)	
百貨店・スーパー		106,045	0.0 2か月連続 プラス	(0.7)	
百貨店	(8.8%)	22,727	▲ 5.2 16か月連続 マイナス	(▲ 5.7)	
スーパー	(32.3%)	83,319	1.5 2か月連続 プラス	(2.5)	
コンビニエンスストア		59,325	2.1 5か月連続 プラス	(1.7)	
ホームセンター		22,137	▲ 0.9 2か月ぶり マイナス	(0.9)	
家電大型専門店		24,695	0.8 2か月連続 プラス	(1.9)	
ドラッグストア		45,924	10.6 36か月連続 プラス	(4.6)	



- ・百貨店の販売額は227億円で、前年同月比▲5.2%と16か月連続で前年を下回った。
- ・スーパーの販売額は833億円で、前年同月比1.5%と2か月連続で前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアの販売額は593億円で、前年同月比2.1%と5か月連続で前年を上回った。
- ・ホームセンターの販売額は221億円で、前年同月比▲0.9%と2か月ぶりに前年を下回った。
- ・家電大型専門店の販売額は247億円で、前年同月比0.8%と2か月連続で前年を上回った。
- ・ドラッグストアの販売額は459億円で、前年同月比10.6%と36か月連続で前年を上回った。

(単位: 百万円、%)

	百貨店			スーパー			コンビニエンスストア		
	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数
令和4年	213,575	3.2	13	763,978	2.1	328	651,000	2.6	3,065
令和5年	211,271	▲ 1.1	13	793,196	3.8	328	665,865	2.3	3,066
p 令和6年	197,780	▲ 6.4	12	813,961	2.6	330	670,147	0.6	3,056
令和5年12月	23,965	▲ 4.7	13	82,080	1.6	328	58,103	▲ 0.8	3,066
令和6年1月	16,885	▲ 3.4	13	68,123	3.6	328	52,813	0.0	3,061
2月	15,428	▲ 3.2	12	62,137	7.2	327	50,948	4.2	3,053
3月	17,801	▲ 5.2	12	66,740	5.1	328	55,301	▲ 1.0	3,050
4月	14,527	▲ 10.4	12	64,139	0.9	328	54,118	▲ 1.3	3,050
5月	14,865	▲ 5.2	12	66,548	1.3	329	56,212	▲ 0.3	3,045
6月	16,684	▲ 4.8	12	67,160	6.7	330	54,873	▲ 0.3	3,044
7月	17,397	▲ 11.3	12	69,318	0.2	330	59,046	▲ 0.2	3,051
8月	13,685	▲ 10.7	12	72,539	4.3	330	60,278	1.0	3,053
9月	14,473	▲ 3.5	12	63,122	1.2	330	55,695	1.2	3,054
10月	15,470	▲ 8.1	12	64,509	▲ 2.1	329	56,940	1.0	3,056
r 11月	17,839	▲ 5.7	12	66,307	2.5	329	54,598	1.7	3,056
p 12月	22,727	▲ 5.2	12	83,319	1.5	330	59,325	2.1	3,056

	ホームセンター			家電大型専門店			ドラッグストア			商業6業態 計	
	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比
令和4年	224,042	▲ 1.2	403	247,359	▲ 1.4	181	415,822	6.0	971	2,515,776	2.3
令和5年	219,575	▲ 2.0	403	241,928	▲ 2.2	177	442,477	6.4	1,015	2,574,312	2.3
p 令和6年	218,606	▲ 0.4	402	239,785	▲ 0.9	176	468,038	5.8	1,045	2,608,317	1.3
令和5年12月	22,340	▲ 2.9	403	24,505	▲ 6.0	177	41,528	4.7	1,015	252,521	▲ 0.3
令和6年1月	15,093	▲ 2.0	402	19,360	▲ 8.1	176	35,731	6.9	1,015	208,005	1.0
2月	14,976	0.7	402	17,899	▲ 3.7	176	34,691	10.9	1,018	196,079	4.5
3月	17,971	▲ 0.8	403	24,593	1.9	176	38,804	7.4	1,025	221,210	2.2
4月	19,954	▲ 0.3	403	16,112	▲ 3.0	176	37,411	4.2	1,027	206,261	▲ 0.4
5月	19,849	0.2	403	16,241	▲ 7.6	176	38,553	5.2	1,030	212,268	0.2
6月	18,196	2.2	403	21,021	10.6	176	39,074	5.9	1,029	217,008	3.7
7月	18,999	▲ 3.6	403	24,469	▲ 4.9	176	41,691	2.3	1,032	230,920	▲ 1.4
8月	19,270	5.4	403	20,735	5.7	176	41,715	6.8	1,036	228,222	3.0
9月	16,828	1.5	403	19,968	0.3	176	37,826	3.7	1,038	207,911	1.2
10月	17,272	▲ 8.0	400	15,664	▲ 5.3	174	38,800	1.5	1,038	208,656	▲ 1.9
r 11月	18,061	0.9	401	19,028	1.9	176	37,818	4.6	1,043	213,651	1.7
p 12月	22,137	▲ 0.9	402	24,695	0.8	176	45,924	10.6	1,045	258,126	2.2

注1: p は速報値、rは確報値。ただし、令和5年分は年間補正値。

注2: 百貨店、スーパー及び商業6業態の販売額は、単位未満を四捨五入しているため、内数の計と合計が一致しない場合がある。

注3: 表中の数値は全店ベースの数値。

参考：広島市の気温

対平年▲0.1℃ 対前年▲0.8℃

★★令和6年12月の動き（各店舗の声から）★★

【百貨店】

飲食料品は物価高による節約志向で生鮮が振るわなかったほか、お歳暮、クリスマスケーキが低調だった。一方、婦人服は低調だったものの、気温低下によりコートや厚手のセーターには動きがみられた。また、クリスマス限定の化粧品や腕時計が好調だった。

【スーパー】

価格上昇によりキャベツや白菜などの葉物野菜、カット野菜、米の売上が増加したほか、年末には刺身や寿司、鍋商材の精肉が好調だった。一方、入荷量が少なくいちごが低調だった。また、価格上昇によりティッシュやトイレットペーパーなどの紙製品が振るわなかった。

【コンビニエンスストア】

価格上昇と販売促進効果によりおにぎりの売上が増加したほか、クリスマスのチキンが好調だった。また、気温低下によりホット飲料が好調だった一方、アイスや酒類は低調だった。

【ホームセンター】

気温低下と節約志向の影響で花苗などの園芸植物が振るわなかった。また、お正月用の切り花、飾り物が低調だった。一方、価格上昇により灯油の売上が増加したほか、気温低下でヒーターなどの暖房用品が好調だった。

【家電大型専門店】

気温低下によりエアコンが好調だったほか、携帯電話が値引き規制前の駆け込み需要で好調だった。一方、新製品の販売が一巡したテレビが低調だった。

【ドラッグストア】

価格上昇により米の売上が増加したほか、年末年始の外出需要増加により化粧品、カイロが好調だった。また、インフルエンザや新型コロナウイルスの流行により総合感冒薬、解熱鎮痛剤、調剤医薬品が好調だった。

(2)乗用車新車登録・届出数

(前年同月(期)比%)

		2022年	2023年	2024年	2024年 4-6月	7-9月	10-12月	2024年 9月	10月	11月	12月
乗用車新車登録・届出数	中国	▲ 5.9	15.5	▲ 8.7	▲ 10.1	1.2	▲ 1.2	2.1	4.6	▲ 1.5	▲ 7.4
	普通乗用車							4.9	16.8	8.2	▲ 0.6
	小型乗用車							1.8	15.4	▲ 4.1	▲ 22.0
	軽乗用車							▲ 0.1	▲ 10.8	▲ 8.9	▲ 6.2
	全国	▲ 6.2	15.8	▲ 6.7	▲ 6.9	1.2	▲ 3.2	0.8	1.0	▲ 3.9	▲ 7.0

(資料 中国運輸局)

(3)消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)

(2020年基準・前年同月(期)比%)

		2022年	2023年	2024年	2024年 4-6月	7-9月	10-12月	2024年 9月	10月	11月	12月
消費者物価指数	中国	2.4	3.1	2.4	2.3	2.6	2.6	2.5	2.3	2.6	3.0
	全国	2.3	3.1	2.5	2.4	2.6	2.6	2.4	2.3	2.7	3.0

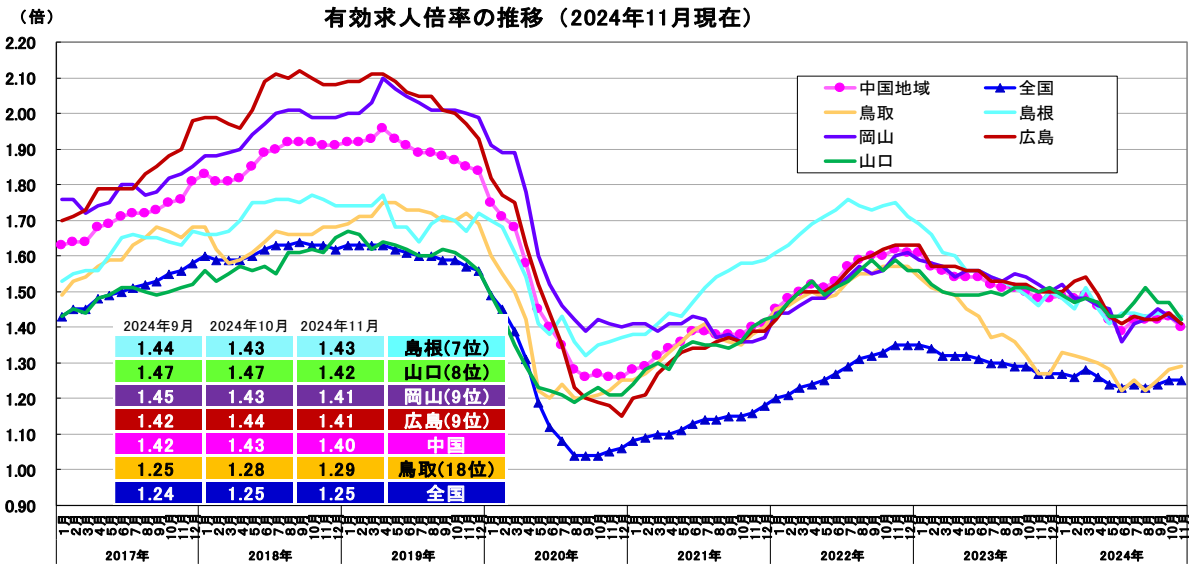
(資料 総務省)

3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で増加～

12月の有効求人倍率は、1.39倍で前月の値を0.01ポイント下回り、2か月連続の低下となった。また、新規求人数(季節調整値)は、前月比6.7%で3か月ぶりの増加となった。

(季節調整値)※1		2022年	2023年	2024年	2024年 4-6月	7-9月	10-12月	2024年 9月	10月	11月	12月
有効求人倍率	中国	1.55	1.53	1.43	1.42	1.42	1.41	1.42	1.43	1.40	1.39
	全国	1.28	1.31	1.25	1.25	1.24	1.25	1.24	1.25	1.25	1.25
新規求人倍率	中国	2.66	2.58	2.50	2.42	2.53	2.44	2.52	2.49	2.34	2.48
	全国	2.26	2.29	2.25	2.20	2.26	2.25	2.22	2.24	2.25	2.26
新規求人数	中国	63,735	62,266	58,634	57,258	58,450	57,519	60,509	57,835	55,497	59,224
		10.8	▲ 2.3	▲ 5.8	▲ 5.7	2.1	▲ 1.6	6.0	▲ 4.4	▲ 4.0	6.7
	全国	866,369	866,937	836,071	826,465	828,543	826,835	836,938	824,244	819,178	837,082
上段: 人											
下段: 前月(年・期)比%		10.8	0.1	▲ 3.6	▲ 3.6	0.3	▲ 0.2	0.6	▲ 1.5	▲ 0.6	2.2
完全失業率※2	中国	2.2	2.1	2.2	2.5	2.1	2.0	—	—	—	—
	全国	2.6	2.6	2.5	2.7	2.6	2.3	2.4	2.5	2.5	2.4

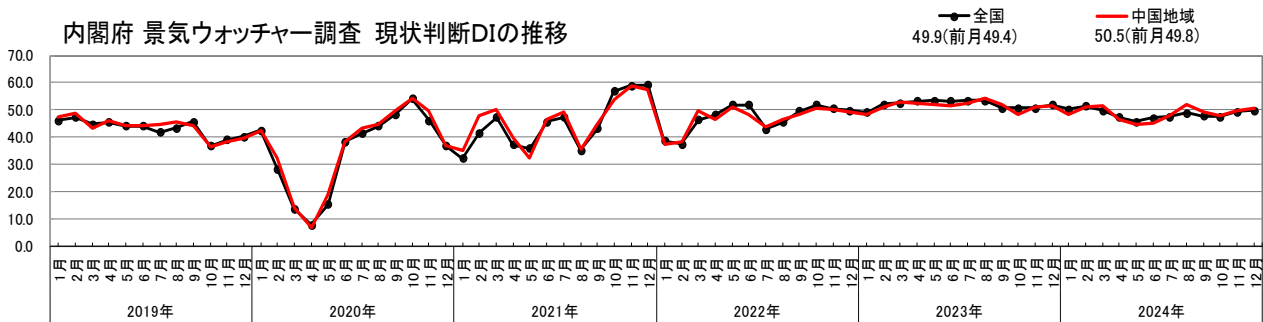
(資料: 厚生労働省、総務省)



(資料: 厚生労働省)

4. 景況感 ～現状は前月に比べ上昇、先行きは低下～

内閣府の景気ウォッチャー調査(令和6年12月調査結果)によると、中国地域の3か月前と比較しての景気現状に対する判断DI(方向性)は50.5となり、前月差0.7ポイントの上昇となった。
2～3か月先の景気の先行きに対する判断DIは47.2となり、同2.1ポイントの低下となった。



(資料: 内閣府)

※1 年は原数値。年、四半期は平均。中国地域の年、四半期の平均は当局にて算出。

※2 年、四半期は原数値。

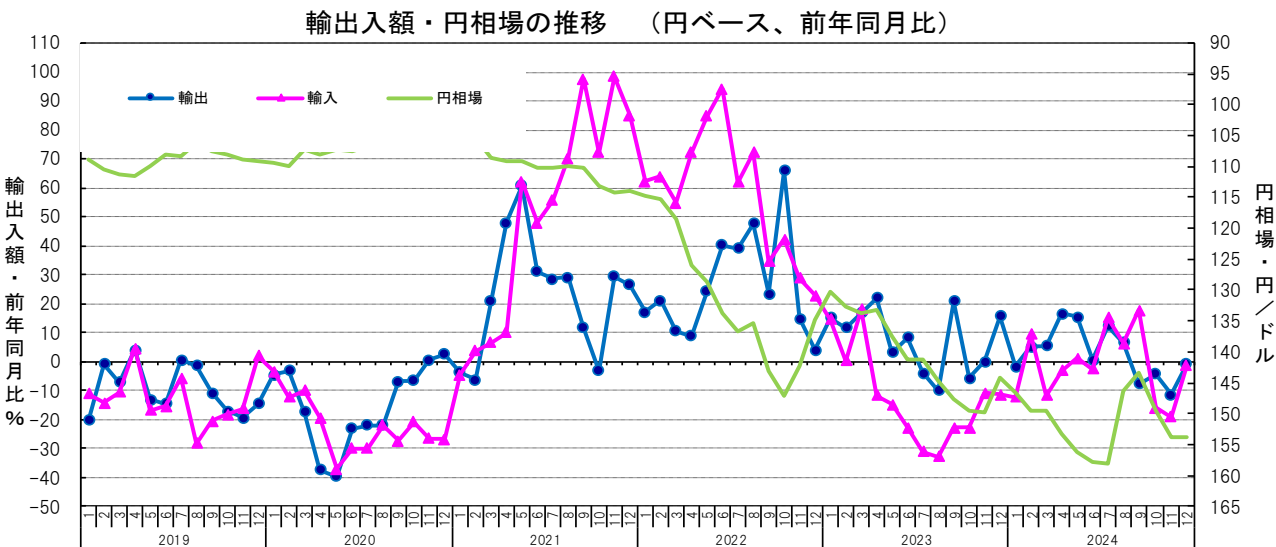
5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で減少

12月の輸出は、前年同月比▲0.9%と4か月連続で前年を下回った。品目別では、自動車、再輸出品などが前年を下回った。地域別では、北米、アフリカ向けなどが前年を下回った。
12月の輸入は、前年同月比▲1.4%と3か月連続で前年を下回った。品目別では、原油及び粗油、石油製品などが前年を下回った。

(通関ベース、円ベース、前年同月(期)比%)※4

			2022年	2023年	2024年	2024年			2024年			
						4-6月	7-9月	10-12月	9月	10月	11月	12月
輸出	総合	中国地域	25.3	6.9	2.6	10.3	3.2	▲ 5.4	▲7.8	▲4.4	▲11.4	▲0.9
		全国	18.2	2.7	6.2	8.8	4.5	3.2	▲1.7	3.1	3.8	2.8
	自動車(中国地域)※3		18.9	34.2	▲ 3.2				▲19.0	▲23.9	▲27.0	▲16.8
	鉄鋼(中国地域)※3		36.3	▲ 12.9	▲ 5.0				▲15.6	▲17.9	▲9.4	▲1.0
輸入	総合	中国地域※3	55.1	▲ 14.0	▲ 2.3	▲ 1.5	12.9	▲ 12.1	17.7	▲15.9	▲19.3	▲1.4
		全国※3	39.6	▲ 6.8	1.8	6.9	6.8	▲ 0.5	1.9	0.5	▲3.8	1.7
	原粗油(中国地域)※3		79.0	▲ 23.4	▲ 20.9				▲0.0	▲38.9	▲38.6	▲27.0
	石炭(中国地域)※3		182.5	▲ 21.8	▲ 19.9				10.2	▲30.8	▲13.4	10.1
為替※5		円／ドル	131.38	140.48	151.48	155.79	149.22	152.36	143.38	149.63	153.72	153.72

(資料：財務省、日本銀行)



※3 月次は速報値。
※4 数値は確報、確々報、確定報により修正されることがある。
※5 為替は東京インターバンク相場(スポット 月中平均 中心、日本銀行公表)

6. 建設動向 ～公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加～

12月の中国地域の公共工事請負金額は、県、その他公共的団体で前年を上回ったものの、国、独立行政法人等、市町村で前年を下回った。合計では前年同月比▲18.1%と7か月連続で前年を下回った。
12月の新設住宅着工戸数は、給与住宅で前年を下回ったものの、持家、貸家、分譲住宅で前年を上回った。合計では前年同月比33.5%と2か月連続で前年を上回った。

		(前年同月(期)比%)									
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年			2024年			
					4-6月	7-9月	10-12月	9月	10月	11月	12月
公共工事請負金額	中国	▲ 4.8	▲ 0.3	8.8	11.2	▲ 13.0	▲ 10.0	▲ 5.7	▲ 1.7	▲ 14.4	▲ 18.1
	全国	▲ 8.6	▲ 0.4	5.3	8.8	2.2	1.2	▲ 1.9	3.2	4.6	▲ 5.7
新設住宅着工戸数 ^{※6}	中国	9.4	▲ 0.3	▲ 12.4	▲ 14.0	▲ 7.2	4.4	▲ 12.7	▲ 17.2	0.8	33.5
	全国	6.6	▲ 0.6	▲ 7.0	0.5	▲ 2.0	▲ 2.4	▲ 0.6	▲ 2.9	▲ 1.8	▲ 2.5

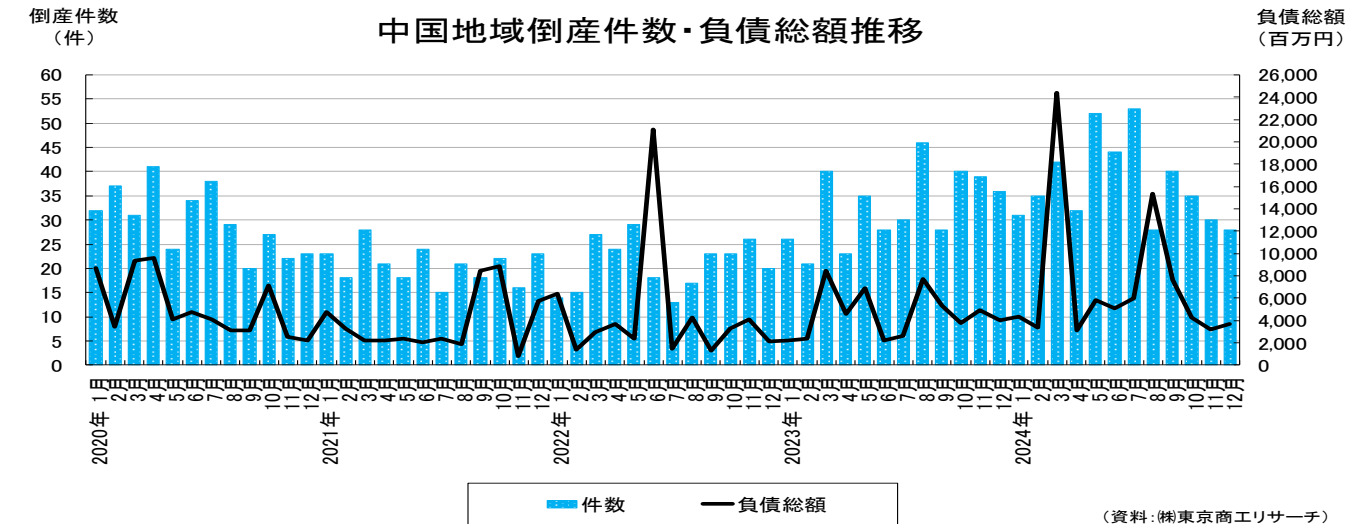
(資料:「公共工事請負金額(中国地域)」(西日本建設業保証(株)広島支店)、
「同(全国)」(北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株))
「新設住宅着工戸数」(国土交通省))

7. 企業倒産 ～件数、負債総額とも前年同月比で減少～

12月の企業倒産件数は28件で、前年同月比▲22.2%と3か月連続で前年を下回った。また、負債総額は36億9,000万円で、前年同月比▲8.8%と2か月連続で前年を下回った。
業種別にみると、製造業が8件、サービス業他が6件、建設業が5件などとなった。
原因別にみると、販売不振が19件、既往のシワ寄せが7件などとなった。

		(前年同月(期)比%)									
		2022年	2023年	2024年	2024年			2024年			
					4-6月	7-9月	10-12月	9月	10月	11月	12月
企業倒産件数	中国	0.8	57.4	14.8	48.8	16.3	▲ 19.1	42.9	▲ 12.5	▲ 23.1	▲ 22.2
	全国	6.6	35.2	15.1	25.2	10.9	7.6	12.1	14.6	4.2	4.0
負債総額	中国	20.6	1.2	56.6	1.8	85.3	▲ 11.6	44.3	14.7	▲ 34.1	▲ 8.8
	全国	102.6	3.1	▲ 2.5	▲ 43.2	5.5	20.0	▲ 80.8	▲ 17.9	68.9	88.0

(資料: (株)東京商工リサーチ)



※6 数値は公表元の修正にあわせて修正されることがある。

8. 設備投資 ～2024年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2024年12月)によると、2024年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比13.9%、非製造業が同30.4%となり、全産業では同21.8%となっている。

◆企業短期経済観測調査結果(2024年12月調査)

設備投資額(含む土地投資額)

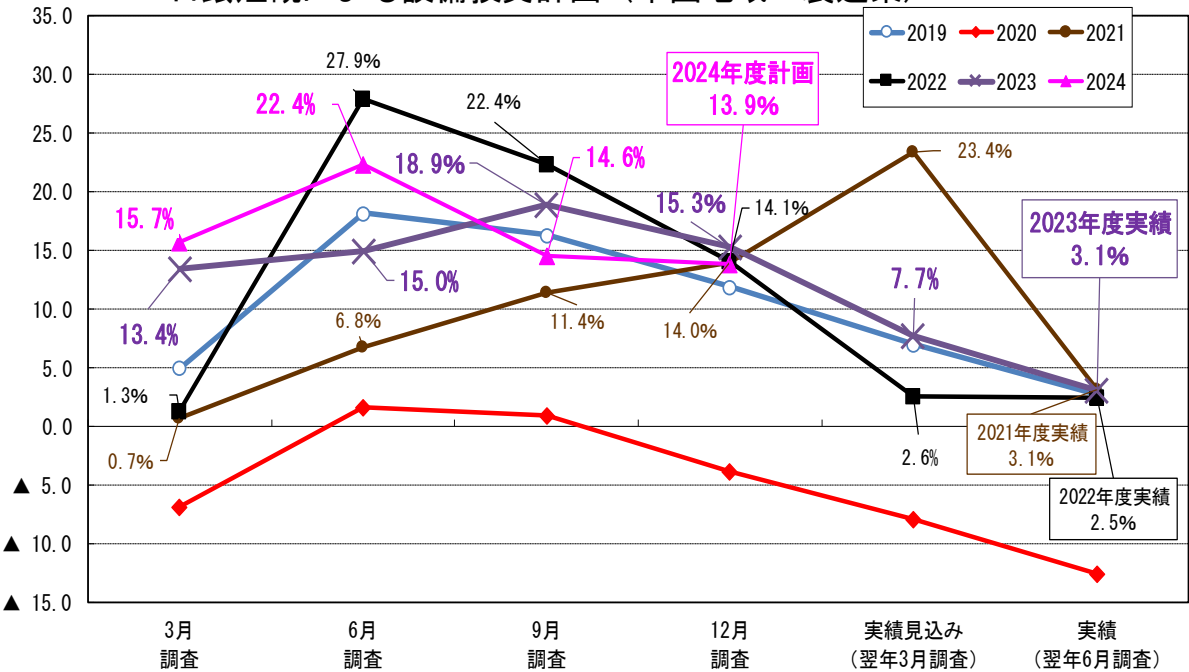
(前年度比・%)

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 計画
中国	全産業	▲ 1.5	9.3	5.9	21.8
	製造業	3.1	2.5	3.1	13.9
	非製造業	▲ 7.1	18.3	8.9	30.4
全国	全産業	▲ 0.8	9.2	10.6	9.7
	製造業	1.1	9.0	6.7	15.1
	非製造業	▲ 1.9	9.3	12.8	6.7

(資料: 日本銀行、同広島支店)

(前年度比・%)

日銀短観による設備投資計画(中国地域: 製造業)



(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。